

## 第六期長期計画・調整計画市民会議（第4回）会議録

■日時 令和4年7月22日（金）午後7時から9時

■場所 武蔵野市役所 412 会議室

### 1. 開会（午後7時）

事務局より本日の会議の進め方等について説明した。

### 2. 議事

#### （1）報告書案について

事務局より報告書案の構成及び作成スケジュールについて説明し、委員から意見をいただいた。

#### 【A委員】

私の発言文だと思われるところを訂正してほしいとか、表現を変えてほしいなどいうのがありまして、4ページの（1）の1個目のポツ、「少人数教育」というのが何箇所か出てくるんですけども、私、多分「少人数学級」と言ったと思うので、そっちにしてもらえたらなと思います。

同じ（1）の一番下のポチですけども、「自己肯定感が下がらないように」というところですけども、日本は最低レベルなので、「自己肯定感が上がるように」と変えてほしいと思います。

個別にまだあるんですけども、とりあえずこちら辺で。

もう一個、確認したいんですけども、これは全体を通して意見ということで、若干、事実と異なったりすることがあっても構わないということですよ。

#### 【事務局】

そのとおりでございます。

細かい文言等につきましては、この後、先ほど申し上げました8月中旬ごろに皆様に確認をいただこうと思っています。こちらのほう、まだ議事録の当時のテープの中身を踏まえて書き切れていなくて、記録に入っていた職員のほうから書き起こしているものになりますので、文言のところは、皆様が発言されたものが合っているかどうかという精査は必要になりますので、そこは8月中旬ごろに皆様に細かくご確認いただきたいと思っております。

ます。本日は構成のところを特に見ていただきたいと思います。第1番と、グループ討議の書き方というか、分け方というか、そういったところになります。

ほかに何かご質問やご意見等ございますでしょうか。

この報告書、いろいろ皆様が議論されていた風景ですとか、そういう写真を少し入れていきたいと思っております。それは実際、当日、グループ討議のときに撮った写真をピックアップしていく予定ですが、それも含めて8月中旬ごろにご確認いただく予定でおります。

先ほど事務局のほうから話がありましたように、巻末に皆様の集合写真を載せようかと思っているんですけども、それにつきましては、皆様が本日よろしいよということでございましたら、会議の終わった後にそちらのほうに並んでいただいて写真を撮ろうと思っておりますが、それに関してはよろしいですか。困るよということがもしあれば。

#### 【B委員】

マスクをつけたままですか。

#### 【事務局】

一瞬顔を出していただけると。今の状況がありますけれども、しゃべらずに、ニコッと見ていただければいいかなと思っております。

残念ながらご欠席の方もいて、全員というわけにはいかなかったところはあるんですが、お集まりいただけるのは本日しかないかなというところでお願いしたいと思っております。報告書について、いかがでしょうか。

#### 【C委員】

前回、前々回でまだ言い足りなかったところを本日お話しした場合に、それを報告書に載せていただけるんですか。

#### 【事務局】

本日のところは、こちらで言いますと、34 ページ以降に本日の意見交換会の内容を出させていただきます。この後、皆様から3分ずつ話をさせていただいて、十分に意見交換をする時間をとりたいと思っております。3分の中で話せなかったことも意見交換の中で話していただければと思っておりますので、そういったところをこちらの報告書に載せたいと思っております。

#### 【C委員】

3分で足りなかった場合には、レポートみたいに書いてきたから、それを提出すればいい

いですか。

**【事務局】**

それも受け取ります。

ほかにご意見、ご質問等ありますでしょうか。

**【A委員】**

構成ではないんですけれども、学校給食について意見が、私も正確ではなかったの、ここで初めて見たんですけれども、学校給食が進むことだという各論になりまして、まだ市内で学校給食がないところもあるんでしょうか。

**【事務局】**

学校給食がないところはないです。

よろしいでしょうか。

では、先ほど申し上げましたとおり、報告書はまた皆様と今後メールで少しやりとりをさせていただきますので、その中で修正等、ご意見等ありましたら、お寄せいただければと思っております。

(2) 意見交換

テーマ「グループ別討議を経て感じた、分野横断的な課題とそれに対する取組み」

**【B委員】**

では、全般に関するところですが、お話をさせていただきたいと思います。

今回のような市民の声をすい上げるということは非常にいい機会だと思うんですが、全体のこのテーマは、非常に範囲も広いし、奥も深いということで、かなりヘビーだなという印象で、皆様、こういった委員に手を上げられるだけに、知識ですとか、勉強をされているので、対応できたと思うんですけれども、ちょっと無理のある話なのかなというのが率直な気持ちです。これは最初にお伝えします。

今回のテーマでいろいろな議論をしたわけなんですけれども、これを全てつつがなくやるというのはなかなか難しい部分がある。それをまた多くの市民に伝えていくというのも非常に難しい面があると思うので、これは、おそらく企業的な発想だと思うんですけれども、ある程度優先度というか、アクセントをつけていく。こちらのシンプルな資料の8ページにあるような基本目標をもっとシンプルにするような価値観の軸ですね。例えば、非常にシンプルに言えば、命、安全・安心、これを何事にも軸にして考えると、そういう中心

軸がないと、これだけの範囲は、横串も刺さらないのではないかと感じております。

その一方で、今回、ほかの委員の方といろいろな議論をさせていただいて非常に感じたんですが、これは、隠れたというか、見えない、非常に価値ある資産が武蔵野市民なのかもというふうに感じましたので、市民の力をより発揮できるようなことで横串が刺せるのではないかとということも考えております。職員の方も非常に一生懸命やられているので、職員の方のモチベーションアップということも考えながら、何もかも頼むということではなくて、これだけ優秀な市民の方が多くいらっしゃる武蔵野市を、一人ひとりの力をもっと引き出せるような枠組みができれば、壁のようなものもどんどん取り除かれるのかなという印象で、きょうの話を見ております。

冒頭にもお話ししたように、いかんせん範囲が広過ぎるので、これをどう強弱をつけていくかが必要ではないかと私は感じているところであります。以上です。

#### 【D委員】

2回のグループ討議でさまざまな分野の課題について、本質の要因ですとか、あるいは具体的に生じている問題などを話し合いました、非常に勉強になりました。

きょうは、最初にご提示いただいた第六期長期計画の策定時からどのような社会情勢の変化があるかという点から、分野を超えた共通の課題として感じた点を2点お話しします。

ごく当たり前の話ですけれども、1つは、新型コロナの影響とそれへの対応ということです。コロナ禍によって、私たちの生活様式とか生活環境は大きく変わりました。勤めている人は、在宅勤務がふえて、夫婦それぞれが、周辺環境を含めて、自宅を職場にしなければいけないという状況があり、別々の部屋で同じ時間帯に仕事をしている。

あるいは、外食や旅行など外出の機会が減るということで、多くの行動規制もございました。

高齢者にとっては、例えば、デイサービスの利用が難しくなって、運動不足となって、ほかの方たちとの交流も減るといった弊害もありました。

市の主催するプログラムも多く中止になったということもあるかと思えます。

子どもたち、これが一番大切なのかなと私は思いますけれども、オンラインでの授業を経験して、これは新たな教育方法としてプラスの面もあるかと思えますけれども、一方で、これまで経験できた遠足ですとか文化祭やクラブ活動、何よりも宿泊行事がほとんど縮小、中止。それぞれの年代で経験できたことができなくなった。教育機会の減少ということが将来的にどういうふうに影響するのかということをごきちんと考えなければいけないのかな

と思います。

こうしたコロナ禍の影響を適切に評価していただき、必要があるものについては、失われた機会をどのように補填していくのかを考えなければいけません。また、今後、以前のような状況に戻るのは非常に難しいと思いますし、新たな感染症等で今のような状況がさらに広がっていく可能性もありますので、変わってしまった生活環境や生活様式はしょうがないということで、それぞれ掲げられている各施策が適切に対応できるのか、あるいは、新たな事態に柔軟に対応できるのかというところを再確認することが必要だと考えます。

もう一点は、平和とは何か、生活の安全・安心とは何かを再確認する必要性です。ウクライナのことや、元首相の襲撃といった、平和や安全・安心を脅かすことが起きています。自分だけかもしれないけれども、想像しなかったような出来事が現実となって起きていることの衝撃はとても大きいものがあります。平和を大切にする武蔵野市の理念のもと、安全・安心ということを含めて、その視点から各施策を再点検することも必要ではないかと思います。対応策等々は考えられませんが、そういった大きな視点でもう一度全体を見直す必要があると感じます。以上です。

#### 【E委員】

1つ前のD委員から、ここ数年間で変わったことということで、コロナのこととか国際情勢のことが出ましたので、私は、災害のリスクが高まっているということと、子どもの教育についてというところで2点だけお話ししようかなと思っています。

災害については六長の中にも何箇所かありまして、災害というのはどういうものをイメージしているのかというと、1つは首都直下型地震。1つは豪雨災害、水害みたいなことをイメージされているのかなと思うんですけども、最近の猛暑を見ていると、「暑い」ということが1つ災害だということも、近年、変わってきていることかなと思います。それがひいては、もしかすると水の取り合いみたいな、干ばつとか、水不足みたいなことも想定した、災害の捉え方を少し広げておくことが大事かなと思います。

農地のことについても書いてありまして、武蔵野には農地がたくさん残っているというのは、1つの宝物というか、すごく大事なことで、もちろん産業振興の面、それから、災害時の避難場所という面、いろいろな農地の効用はあると思うんですけども、農地の活用を災害のときのためにという視点をもう少し強めてもいいのかなと思います。

もう1つ、子どもの教育については、ここ数年で認可保育園がふえまして、保育料の無

償化。これは国の施策だと思うんですけども、無償化ということで、かなり大きな進展があったかと思います。その進展したことによって、また新たな保育需要が掘り起こされて、数字には出てこない待機児童というか、潜在的な需要も高まってきているのかなと思いますので、そういう変化を踏まえて、次、どうしていくのか。数合わせ的には満たされたように見えるんですけども、あとは質という面では、これまで発言しましたけれども、園庭のない保育園でひとまず我慢しているところもあるわけで、保育園の質を上げていくというところも大事な視点かなと思います。以上です。

#### 【F委員】

私からは、分野横断的かどうかはわかりませんが、会議体そのものに関して意見を述べさせていただきたいと思います。2点ございます。

1点目が、この市民会議というものは非常に意義があるものだと思っておりますし、私は非常に楽しくやらせていただきました。ただ、募集段階で18名の応募があつて、18名全員採用すると。これではだめなんですね。と私は思うんです。いや、別にいいんです。全員採用するので構わないんですが、500名募集があつて18名採用しました。こうじゃないといけないと思うんです。そうしないと、より多くの広い年齢層、バックボーンを持った人たちの意見がなかなかすい上げられないのではないかと考えます。

それに関してどういうふうにすればいいかという話ですけども、それは市民教育を行っていくしかないのかなと思います。「地方自治は民主主義の学校」とよく言われますけれども、そういったことで、小中高生のあたりから、こういった市民会議みたいなものがあつて、大人たちも政治家じゃなくても市政に参加できるんだよということをどんどん伝えていく。子どもから親に伝わっていくのでもいいと思うんです。そういったことを進めていくべきではないかなと考えております。特にかかわるものを見せることが大事だと思います。

2点目が、これも会議体の話ですけども、こういった市民同士が集まってお話しする。これは非常に重要なことだと思います。市民という立場から一定のものを出していく。ただ、職員の方、あるいは議員の方の意見、できること、バックボーン、そういったことを伺いたいなと思ったのも事実です。なので、職員の方、議員の方、市民の方、そういった立場を超えてフラットに話せるような場がもしかしたら上のほうであるのかもしれませんが、もうちょっと下のほうでそういった場を設けていただければ、もっと議論も盛り上がるのではないかな。また新しい変化が生まれるのではないかと考えております。

私からは以上でございます。

#### 【G委員】

私のほうからは、今回初めて参加させていただいた感想みたいな形になるんですけども、今回いただいた資料、結構厚くて一生懸命読むんですけども、全部頭に入っていないと思うんですけども、ただ、これだけのことをやっているというのが今までわからなくて、これは、自分が勉強不足というのもあるんですけども、皆様にもうちよっとうまい、何かしらの宣伝をして、こういうことをやっています。ですから、こういうときに困ったな。例えば、変な話ですけども、駅の掲示板でもいいですけども、大きく、こういうことをやっているの、こういう点で困ったら、ここに相談をくださいとか、そんな広報活動をもうちよっとうまい、何かしら、ベタなやり方でも構わないので、していただければ、武蔵野市、結構いろいろなシステムがあるなど今回すごく認識したので、これは活用していただけて、なおかつ、周りから人が、さらにいいなということもふえていくことを願っているというのが1つです。

もう1つは、今回これをやってみて、やったことで、6項目について短時間で皆様話して、何分と決められて話しているんですけども、これが実際に形になるのはどうなるかというのを、例えば、市民会議の分科会でも構わないので、この分野は参加したいとか、募集をかけて、市民の意見ももう少し具体的に実際に行動に移すところまで持っていけなかなというのが、差し出がましいようなんですけども、考えているところです。その2つがあれば、結局いろいろな話をして、皆様これだけ知識があつて、市の方も一生懸命時間を割いてやっていただいて、それが無駄にならないで、1個でも2個でも具体的に形になると、それはかかわった人も喜ぶし、周りの人たちもこういうことをやれば、ちゃんと現実になるんだよということをみんなにもうちよっとうまい何かしらの方法で、市報だけではなくて、ご報告していただいて、続けてほしいなと思います。

すいません、とりとめない話で。

#### 【H委員】

ぺらぺらしゃべりますので、きょうは文章にしてまいりましたので、読ませていただきます。

市民力向上のためのゆりかごから墓場までの継続した市民教育と市民活動。

今回、この会議に参加し、さまざまな立場からの市民委員の方のお考えをお聞きしました。市政にかかわる全ての事項は、ヒト・モノ・カネの継続有効活用にかかっていると感

じました。その中でも人、特に市民力向上の取組みに着目しました。武蔵野市民のゆりかごから墓場までの間に、どのように生き生きと暮らし、武蔵野市を支えていくかを認識させる継続したコミュニティ構築、市民活動、市民教育をより加速するために、武蔵野市に転入する方々を含め、人生の節目、節目ごとに継続して働きかけ、結果、長く武蔵野市に住んでもらう環境づくりを進めていくことを考えます。

私の場合、子どもが保育園から中学校に通う間は、地域のコミュニティにかかわることもありましたが、それ以後は、今に至るまで、市政や地域コミュニティにかかわっていない空白期間がかなり長くありました。ダイバーシティの観点で、男女の区別を挙げることははばかられますが、それでも、社会に出ている男性は、よりその空白期間が長くなります。また、独居の方々もその空白期間が長くなるため、その空白時間を埋める継続的取組みが重要と考えます。

また、費用対効果のこともございますが、私が簡単に考えたことだと、今あるものをより活用するということでは、「市報むさしの」というものが全戸に配られているんですけども、例えば、武蔵野市の全ての小学校から大学の中に、若い人向けのわかりやすいもの、もしかしたら、今、もうあるかもしれないですけども、不勉強で、もしありましたら申しわけございません。そういうものに、市民に配るものとは内容が違う、例えば、小学生でしたら、市報のところに、心が苦しいときはここに連絡してとか、保健所の仕組みとか、そういうことを小学校から、ごみの分別ですとか、そのようなことも、字が読めるころからそういうものにかかわってもらって、そして、子どもでも市民の役割を果たしていただくような活動ができたらいいかなと考えました。

以上です。ありがとうございます。

## 【I 委員】

このような機会をいただきまして、いろいろ考えてみたんですが、非常にたくさん分野横断別のテーマがあるんですね。何に絞っていいか。私自身は、武蔵野台地を抱える生産緑地のただ単なる保全という視点ではなくて、教育、福祉、こういった分野での貴重な資源として活用していきたいということについて、少し述べさせていただきたいと思います。

特に、この分野の施策を考えているときには、近隣自治体ですか、武蔵野台地という概念で捉えていく必要があるかなというのが1点ありました。ただ単に武蔵野市だけでなく、近隣の自治体との連携。

世田谷の事例がNHKで紹介されていたんですが、非常にいい成果を出していると思い



ました。具体的な話は差し控えますが、ぜひこういう進め方をしていただきたいと思うのが1つ。

さらに、もう少しその先に進んで、実は、生産緑地を活用して、子どもたちの教育、あるいは高齢者の福祉を考えると、自然だとか、有機農業という概念を取り入れていけば、もう少し環境問題に目がいくとか、食の安全に目がいくことが考えられるのかなと思いました。

さらには、実は近隣自治体との連携という概念でいきますと、先ほどの災害のときの食料確保の視点だろうと思うんですけども、そういう視点から農地というものをもう少し範囲を広げて、近隣の県ですね。最近、若い人たちも、千葉だとか埼玉だとか、他県に出て行って週末を過ごして、そこで自分たちが、大規模とは言いませんが、農業をやっていく傾向があるわけですから、こういった都市との友好関係、姉妹都市の概念をもう少し危機管理的な、食料危機というのは起こらないと思っているんですが、ひょっとしたら近未来に起こるかもしれない、そんな対応ができる基盤をつくっていく意味で、近隣の県あるいは自治体との姉妹都市のあり方も考えていただきたいなと思っておりました。以上です。

#### 【C委員】

私も防災に関係することで、分野横断的になるかどうかわかりませんが、総合施策の欠如という形でお話をさせていただきたいと思います。実際、私が経験させられたことでございます。

H委員同様、ペラペラ読みますので、すみません。

うちのほうの防災会では、毎年、中学校の生徒に防災教育指導を行っています。今年度は、東京消防庁のVR車を招き、現実味を帯びた点検を企画し、最も大切な命を守る最初の行動を学習する予定でした。しかしながら、残念なことに、予約はとれたんですけども、現場を視察に来た消防署の方が、中学校にはVR車は入れない。なぜかという、都道と歩道の高さの段差があって、おなかですって入れませんということなんです。そういったこともあるので、市政の内輪だけではなくて、東京都とも積極的に働きかけて、全ての小中学校に対して、1本ぐらい災害時研修時に大型車両、特科車両が入れる災害時幹線道路が必要ではないかと思っております。

2番目。市民生活の安全・安心のために防犯カメラを女子大通りに設置申請いたしました。当商店会で事業所3カ所、東のコミセンに1カ所、設置させていただきました。ところが、武蔵野市はコミセンの敷地内に表通りに設置することを拒み、市民の安全・安心は

二の次で、安全対策課と市民活動推進課、用地課、建築指導課、構造設備というのかな、そこまで絡んで、てんやわんやで、令和元年4月に申請したのに、まるまる1年かかりました。よその自治体で「すぐやる課」というのを耳にしたことがあるんですけども、市民が何を求めているのか、必要なのは縦割りの行政に横串を通せるシステム、少し権限を与えられるようなものがあつたほうがいいのではないかと思って、私自身が大変苦勞させられました。

その次、防災モデル道路を構想し、行政にも提案したことがあります。拡張された道路に片側車線に車道を1車線、自転車道、歩道をそれぞれ設けて、ガードレールは当然区分するわけですけども、自転車道と歩道にはガードレールのかわりにはしごをガードレールとして設置する。それでいざというときに活用できる。歩道の部分には救助工具を積みましたボックスを設置する。大災害時に備えたものが非常に大切な役割となるので、そこら辺はぜひ検討していただきたいと、市のほうに文書として投げたことがありますけれども、何の返答もございませんでした。あとは、後ほど提出させていただきます。

#### 【J委員】

私は、前回の第3回目の議論の中で、各班から共通して出てきた吉祥寺駅南口駅前広場の整備について、私も非常に関心のある分野だったので、これに絞って、私なりに調べた、あるいは観察に行きましたので、お話をさせてもらいたいと思います。

この件に関して一番詳しく出ているであろうというのが、「NEXT吉祥寺 2021」という昨年2021年の9月に発表された文書、書面なんですね。それで、何をつくるかというところ、約1,900平方メートルの駅前広場内にバス降車場を設置し、パークロードからバスの通行をなくし、歩行者優先化を図ります。この部分なんです。

調べますと、そもそもこれはどこなのかというと、パークロードと井ノ頭通りの中に三角州のような場所が昔からあるんですね。吉祥寺駅を降りて井ノ頭通りに行く歩道がありますけれども、あれの井ノ頭通りに向かって左側の部分のようなんですね。

ただ、これをよく見ますと、何をつくるか。バス降車場をつくるんですね。なので、井ノ頭通りの丸井側に、今、8つ出発のバス停があるんですけども、あれは基本的にそのままである。それから、おそらく、バスは今はパークロードの狭いところをそこのけそこのけで入ってくるんですけども、多分井ノ頭通りにみんな入ってくるのではないかと思うんですね。なので、バラ色の未来ではなさそうな気もするんですが。

いくつか疑問点があつたので、市に問い合わせました。そうしたら、都市整備部吉祥寺

まちづくり事務所から丁寧な文面をいただきました。そもそも何年の完成を目指していたか。2000年に都市計画決定しています。当初は、2005年、5年後の完成を目指していました。なぜおけているのか。これは、関係地権者との折衝を進めていますと。用地買収はどこまで進んだんですか。47.72%まで進んでいます。これが最新情報でしょう。バスの流入はどれぐらいありますか。パークロード、平日700人ということなので。

ごめんなさい。時間がなくなってきましたので、また後で申し上げたいと思います。失礼いたしました。

#### 【K委員】

まずは、長期間のこの会議、皆様、いろいろとありがとうございました。

ちょっとこの絡みだけ違うんですけども、ある内科の先生が、武蔵野市の方と交流があって、よくご存じで、武蔵野市の職員の方は非常に能力の高い人が多いので、この方たちにしてもらえば心強いよねという話を聞いていまして、その辺、どうかなというイメージでこの会議に出させていいただいて、今回、この資料を見させていいただいて、ある意味、失礼な言い方をしますと、とりとめない意見をうまくまとめられたなというふうに見させていいただいて、やっぱり能力的に高い方々がつくられているのかなと思って、感心して見させていただきました。どうもありがとうございます。

本題というか、横断的な話となると、先ほどほかの委員から言われたように、集中豪雨とか暑さとか、そういった意味では防災というところが非常に横断的なものではないかなと思っています。ここにも地域防災という計画をいただいているんですけども、地域防災の中に入っているのは、各課の方が皆様ほとんど入っているのではないかなと。つながっているのではないかなと思ひまして。そうすると、これをつくるのに各課が協力されてつくられているということを考えますと、いろいろな意味で、長期計画の中でもあまり強く内容がないという話もほかの委員からもあったので、地域防災という大括りというよりは、直近で集中豪雨であるとか暑さであるとか、そういった観点からも今回の調整ではされたほうがいいのではないかなと思っています。

というのは、私の住んでいるマンションが、先日の1時間ぐらいの豪雨で、過去にもあったんですけども、雨の水が排水で流されるんですけども、それが排水し切れず、上がってきて、1階ですから家の中まで入ってくる寸前という現象が起きまして、集中豪雨が起きると、こんなところでも床上浸水になるんだなと。おそらく五日市街道にある排水がキャパを超えてそういうふうになってくると思うんですけども、意外に気がつかない。

地域で気がつかないところ、前にC委員も言われました女子大通りに貯水槽がある話もありましたけれども、大きいところは気がつくんですけれども、小さいところは気がつかないですから、そういった意味でも、こういう会議をされることによって、なかなか表に出てこない、でも、災害になるんだなということをすい上げるということでは非常にいいのではないかと思います。ありがとうございます。

#### 【L委員】

グループ討議、大変熱心にさせていただいて、私も勉強になりました。ありがとうございました。そのグループ討議で分野横断的な課題として印象に残ったことを2つ申し上げたいと思います。

1つは、先ほどI委員からも出ましたけれども、食育教育ということが話題になったときに、それをもう少し充実すべきだと。背景としては、ウクライナの戦争によって日本の食料自給率が低いということが皆様の頭にあったのだと思いますけれども、子どものときから、野菜を自らつくり、収穫し、料理してというようなことを、今、学校単位で行われているという話もありましたけれども、市として公式に取り組んで、強化していったらどうかというお話から始まったわけです。

それが発展しまして、じゃあ、誰がそれを教えるんだということになると、経験豊かな高齢者がそこに参加したらどうかという議論に発展し、また、その場合はどうするんだということになったときに、縮小している生産緑地を市が借りる、あるいは借り上げるということでそういう場をつくったらどうかという議論に発展して、非常に横断的な議論ができたなと思いました。これは幾つかの横断的な課題なので、ぜひ関係者の人で取り組んでいただきたいなと感じております。

2つ目は、話の発端は、市の人口がふえていく。だけど、よくよく資料を見ると、製造業の従事者が10年前に5,000人規模だったのが、なんと400人まで激減しているんです。武蔵野市は働く人が減ってしまっている。これでいいのだろうか。弊害として考えられるのは、税収が落ちます。あるいは、まちのたたずまいが変わるかもしれないということだと思います。そのために製造業をふやすというのは今さら無理ですけども、先ほども出ましたけれども、在宅勤務、テレワークというのはふえていますから、実際、家でテレワークできる環境に日本の住宅事情はないわけでありますから、都心に行くところなんですけれども、武蔵野市の駅の近くにサテライトオフィスをつくる。空き家対策にもなるのではないかと、そういうものを用意すれば、市に住んで、駅の近くで働いて、それ

で教育も家庭で両親そろってできる、非常にいい環境ができるのではないかと思いますので、ぜひそれを推進していただきたいなど。先駆的な取組みになると思いますし、武蔵野市に高度人材を呼び込むインフラにもなるのではないかと考えております。以上です。

#### 【M委員】

グループ別討議を経て感じた分野横断的な課題とそれに対する取組みなんですが、今回、コロナ後の六長とコロナを経て六長調でどう調整していくのかということが気になって参加したんですけども、いざ話し合いをしてみると、コロナ感染症施策の話は、思ったほどは出なくて、出てきた課題は、わりと普遍的なものが大半に感じました。

その中でも全ての分野で出ていたのが2点で、まず1点は、担い手不足について。武蔵野市は昔から市民活動が活発な自治体だと思うんですが、ライフスタイルの変化などあって、さまざまなコミュニティや防災だったりボランティアだったりの活動の担い手が不足しているという意見が出ていました。

六長でもさまざまな記載で担い手不足について課題だと指摘していて、それぞれの分野で担い手をふやす取組みが行われているのは理解しています。ただ、担い手不足が解消されたという話は残念ながら聞いていません。もはや担い手不足の解消という考え方では解決しないのではないかと思います。活動する側の仕組みや運営方法を変えて、誰でも気軽に参加できるプロジェクト型の活動にするなど、思い切った方向転換が必要だと考えます。その中から継続的にその活動を続けてくれる人が出てくれば、結果的に担い手不足の解消につながるのではないかと思います。

2点目は、広報の限界についてです。討議の中で、市報の1面に大きく掲載されている施策についても、全く知らなかったとか、いつできたのか、始まったのを知らなかったという意見がありました。個別計画やその委員会などで議論を重ねて、議事録も公開されて、市議会の各委員会でも実施が報告されて、予算を承認されて、議事録も公開されて、市報にも載ったり、季刊むさしのに載ったり、市のホームページ、むさしのFM、ケーブルテレビなどでも広報されていて、ものによっては、市議さんが宣伝したり、新聞の地方欄に掲載されたりしているにもかかわらず、そのような状態になっています。人は、自分の興味のあるものにしか目を向けないのではないだろうかと思います。

私自身の話になるんですが、子どもを通わせるつもりだった境幼稚園がなくなることを皮切りに、いろいろなことで行く先、行く先で何かしらのトラブルがあって、それに対応する形で10年近く市政を追って勉強しています。

そのころ、始まりのころから比べて、市の情報公開や広聴広報はとてもよくなってきていると感じています。なので、広報については、そろそろ興味がない人を振り向かせるということの限界をある程度認めてしまっているように思います。そのかわり、市のホームページの使い勝手をよくして、調べ物をしやすくしたり、SNSなど新しい媒体が出たら、それに合わせた情報発信を今でもされているんですが、さらに充実させたり、あとは、他の言語、日本語以外の言語でも伝わりやすいシステムを導入するなど、進化を目指しているのではないかと思います。以上です。

#### 【A委員】

各テーブルでやったときに、緑・環境分野はボランティアがしやすいなと思って、家に帰って、次は横断的な話になる。どんな話をしようかなと思って考えていたら、あれ、この分野でもボランティアがあるな、この分野でもボランティアがあるな。武蔵野市は市民活動が市政全体にわたってあるみたいなんですね。さっき出したのは緑なんですけれども、例えば平和だったら、市民平和月間とあって、いろいろな市民団体が集まって、11月にいろいろな平和のイベントをやったりするんですね。あと、生涯学習計画だとか、その中でも、市民活動と生涯学習の連携。それから、そもそも市民活動促進基本計画というものがあったりします。あと、コミュニティの東町の重鎮の方の言葉で「コミュニティ活動と社会教育は車の両輪だ」だったり。以前、西久保コミセンで市の財政の勉強会を、これはどの団体か忘れたんですけども、あらゆる分野で市民活動で武蔵野市は動いています。

それでちょっと考えていたんですけども、昨年、コミュニティ構想が50周年ということで、コミュニティ評価委員会というのが武蔵野市にあるんですけども、その委員長の都立大学の玉野先生のお話を伺いました。その先生のお言葉で、かつては税金で行政が多くの公的サービスを供給していました。行政がそこまでできなくなってしまいました。阪神淡路、東日本の震災で、何でもかんでも行政ができるわけじゃないんだということがわかってきた。自分たち自身が動いて市を動かしていかないと、市は動かないんだということがわかってきたということです。

じゃ、どうすればいいかという、市は市民に動いてもらわないといけない。ただ、市民にああしなさい、こうしなさいというのはあり得ない話で、どうやったら市民たちが活動にやる気を持ってくれるか、関心を持ってくれるかということに力を入れていかないといけないのではないかなと思いました。これは全分野にわたってそうなると思います。市民活動という長計の1つの施策で考えてしまいがちなんですけども、全分野に対して

それがないと市は動かないんだなという感想です。以上です。

#### 【N委員】

私がこの3回の会議ですっと思っ、これが気になるなと思っところ、武蔵野市は財政が豊かで、心配事も少なくてという、市民自体に危機感がないというか、何か大変なことが起こるんだよという市民の危機感が少ないのかなというところを思っ、先ほどF委員も言っていましたけれども、こういった市民会議がありますよと市がお知らせをしても、そこに関心を向ける市民の数が圧倒的に少ない。それは、安心感というか、大丈夫じゃない？みたいなのがあって関心が少ないのか、何が原因で少ないのかわからないんですけれども、18名の人数がすごい数の中から応募殺到で選ばれてきたというくらい市民の関心が高まっていかないと、せっかく市の方がすごい資料をつくってくださったり、すごい計画準備をしてくださっているにもかかわらず、もったいないというところがあり、それを市民の側は勝手に「聞っていないよ」と言って済ませる。そこの体質が変わっていく施策が打てたらいいのかなというのはすごく思っます。役所側の責任だけではなくて、市民意識の持ち方のところ、市民一人ひとりが自覚できるような施策ができたらいいいのかなというのを感じました。

あと、知らせる方法も、今、いろいろな方法があると思っ、私は紙ベースでただけするのが一番ありがたいと思ってしまうんですけれども、SNSとか発信のところをうまく使っ、若い人たちがどういっうところで発信すると興味を持ってくれるのかなというところも探りながらやっていけたらいいのかなと思っています。

あとは、教育にお金をかけてほしいなというのもすごく思っます。私たちは先がそんなにあるわけではなく、これからの子どもたちが武蔵野市をどうやって大好きなまちにしていくのかなというところを学ばせるためにも、先ほどどなたかが言っていましたけれども、学校教育の中で武蔵野市はこいっう市だよとか、子どもたち自身が武蔵野市を大事に思えるような教育をしてほしいなと思っます。

その一端が多分市民科というのができたのだと思っんですけれども、あれも教育委員会の頭のいい人たちが考へてやるだけではなくて、もっつそれにかかわるほかの課の人たちともすり合わせをして、全市的にいっうか、庁舎の人たち誰に聞っても、市民科のことを知っているよ。武蔵野市のためのものだよという答えが返っってくるくらい、庁舎の中での意思疎通もやっていっただきたいなと思っます。

あと、議員さんの使っ方。F委員も言っていましたけれども、地域を代表して出ている

議員さんから、議会からの報告、議会でこんなことを話しているよという報告が少ないかなと思います。私の地域はそんな感じです。だけど、代表して出ているんだから、そこで聞いてきたことは住民に返してほしい。議員さんの使い方ももうちょっと仕組み的にできるのではないかと思います。以上です。

### 【〇委員】

皆様、一巡してご意見を伺って、とても感動しております。3回を通してグループ討議していただいたおかげで、だいぶ市のことを知ることができて、自分もとても勉強になったなと思って、有意義な時間を過ごせてよかったなと思っています。

今までの皆様のご意見を聞いて、私も分野横断的に考えるところもあったんですけども、ここで違う提案をさせていただければと思います。

分野ごとに取り組んでいます、今、武蔵野市の現状では、行政のセクションのノウハウを活かすことで、効率的で専門的に取り組むことができると思うんですが、一方で、これはAグループで出された意見ですけども、分野横断的に連携して取り組むことで、より市民が便利になったり、財政的に節約が図れることがいろいろあるというご意見が出ました。ほかの自治体の例では、行政の中で重点プロジェクトを実行するための分野横断的な課があるということを知っています。

例えば、長期計画の目標すべき姿。誰もが安心して暮らし続けられる、安心して暮らし続けるまち推進プロジェクトチームですとか、8つの重点施策があるわけですけども、まず、この市民会議で分野で議論いたしましたけれども、分野は分野として、それを重点施策として分野横断的にどうやって実行していくのかというところも考えるべきではないかと思いました。

なので、プロジェクト推進グループを専任で配置して、具体的に取組みを推進していったらどうかなと思いました。そのグループには、行政の方々はもちろんですけども、興味があってノウハウがある多年齢層の市民ですとか、企業の方、大学など、何らか協働しながらやっていくという、行政だけでない柔軟な体制が要るのではないかと考えました。

ほかにも分野横断的に考えてきたんですけども、最後に、Aグループでも意見が出ましたが、コミセン、学校、公園などの公共施設について、地域のニーズですとか特性、そしてコロナ禍とか、今後の社会情勢に合わせまして、複合的で多機能、有効活用を図ることができる柔軟性が欲しいのではないかなと思うんですね。ここの管理だからこういうことができない、公園条例があるからこういうことができないというのはあるかもしれません



けれども、まずは一回それを取り払って、分野横断的に有効活用していただければと思います。以上です。

#### 【事務局】

ありがとうございました。

最後に、本日、お休みなんですけれども、P委員から事前にご意見をいただいていますので、私どもが代読させていただきます。P委員からのご意見になります。

当事者でないとわからないことがいかに多いかということも実感しました。武蔵野市には出産できる病院が少ないこと。また、待機児童ゼロというのも額面どおりに受け入れるわけにはいかないと思いました。その立場にないと実感できない、痛感しないということからかんがみても、その立場にある人、当事者の意見を何らかの形で取り入れることができればよいと思います。車椅子を使わないとバリアフリーを含めた道路の不便な点は想像できないのかもしれない。

というご意見をいただいております。

皆様、まず、3分という制約の中でありがとうございました。これから8時50分をめぐりに約50分、ご意見、また意見交換、あるいはちょっと話し足りなかったところをお話ししていただければと思っています。では、挙手をお願いします。J委員からお願いします。

#### 【J委員】

手短にお話をいたします。

吉祥寺駅南口駅前広場の整備について、都市計画が決定したのが2000年でした。当初は、いつ完成を目指していたのか。5年後の2005年でした。ことしは2022年です。この間の用地買収率は47.72%です。では、今現在、いつ完成することを目指しているのか。完成年度は定めていないそうです。整備には時間がかかっております。ということなんです。

それで、確かに地権者との交渉が極めて難しいというのはよく理解はできるんですが、20年強たって、まだ50%にも用地買収が満たないということだと、あと何十年かかるのかと。用地買収だけであと20年かかるのか。その後に事業認可を実際にどういう工事をするのかという取得をするのが必要だそうなので、それで考えると、はるかかなたになってしまうのかなと思うんですね。

ただ、それではいけないと思うので、どうすればいいのか、私なりに、この案件に限ら

ないんですけれども、考えたんです。特に、重要施策については、いついつまでに完成するというスケジュールがないとだめだと思うんですね。そうしないと、多分いつまでたってもできない。

それから、進捗状況がどうなっているかというのを、今よりも頻繁に市民に対して発表しないといけないと思うんですね。半期でもいいし、1年でもいいんですけれども、どうなっているのかがさっぱりわからないというのはよろしくないと思うんですね。

それから、問題点については、これも市民と共有すべきだと思うんです。中には、市として格好いい話ではないので、伏せておきたいという話はあるのかもしれないですけども、こういうことで暗礁に乗り上げているんですよ、こういうことで困っているんですよということまで言っていた方がいいと思うんですね。それで、場合によっては、市民からパブリックコメントでも何でも意見をもらうということがいいのではないかと思います。

私は、吉祥寺の南口の案件については、これだけで専門部署を立ち上げていいぐらいの案件だと思っているんですね。そうしないと、いつまでもたっても膠着状態が続いているというのは非常によろしくない。いろいろな問題は解決したんですけれども、今残っている中で最高難易度の案件だと思っているんですが、ぜひ、私の意見ですけれども、今申し上げたようなことをやっていただいて、少しずつでもいいですから、前に進めていただきたいと切に思っております。以上です。

#### 【C委員】

J委員と共通していることなんですけれども、南町の問題に関しては、我々も非常に関心を持っておりまして、公会堂建て替えの問題も出ていますので、吉祥寺南口のグランドデザインをあらゆる角度から検討するために、有識者だけではなくて、地域住民の良識ある人の意見に耳を傾けていただきたく、地域住民検討委員会を設置してほしい。なぜかという、自転車の駐輪場を市が売却して、契約も成り立っていますね。ああいったことが二度とないように、市民にそれほど説明もなく、売却も契約されているわけですよね。そこら辺が、後になってこういう愚策はなかったほうがよかったみたいなことになりかねないので、市民としっかりと相談して、意見をしっかりと聞いて、そのような説明を十分にやっていただけるような人じゃないとリーダーシップをとれる人じゃないと思っております。

それから、女子大通りの問題ですけれども、六長の101ページ、道路ネットワークの構築というのがあるんですけれども、都市計画道路のネットワークという意味なんですけれども、「女子大通りについては歩道が狭く、自転車走行空間も設けられていないため、車

いすやベビーカーの利用者、児童生徒等の歩行者や自転車利用者など、誰もが安全・安心に通行できるように拡幅する必要がある。また、一般延焼遮断帯や緊急輸送道路としても位置付けられており、拡幅により防災性の向上が図られることから、東京都へ事業化を要請する。」と書かれているんですね。これ、事業化を要請しているんですか。現時点で。しばらく聞いたことがない。何にも聞いたことがありません。しているのか、していないのか。こういう場で理事者である市長さんにも本当は同席してもらいたかった。これは市長さんのあれでしょう。六長。市長さんが目を通して、答申ですね。そこで、要請する。断言しちゃっているんだから、即答できるはずなんです。しているのか、していないのか。こういったところがお役人任せになっているんじゃないですかという気がします。

### 【I 委員】

個別の案件に対するご意見と、全体的な長期的な視点、どういうふう調整計画をつくっていくかということで、異質のものが語られていってしまっているので、まとめるときに、ぜひきちんと分けていただきたいなと思います。

大枠での話なんです、気になっている点が2つあります。

まず1つは、市民活動の担い手がいなくなっている。A委員のご意見。これ、多くの施策実施の時点で、有償なのか、無償なのか、本当にボランティアだけでやっていいのか。あるいは、ある程度の有償の対価を払いながら実施していく。この辺のすみ分けがとても大事なのかなと思います。生きがづくりという意味では、少しお金をもらったほうがいい場合もあるんですね。高齢者にとっても。ボランティアだけに任せていると、ボランティアというのは、ある意味では無責任なんですね。申しわけないですけども。対価を払ってもらっていないから。この辺もきちんと実施する段階でもう一度見直していただきたいなと強く感じました。

2点目は、横断的な話を進めていくには、タスクフォースという言葉かどうかは記憶にないですが、いわゆるプロジェクトチーム的なものをつくって実施していかないと、まとめ切れない。これは自明の理というか、当たり前の話なんですね。いろいろ違った分野の方が集まって1つの目標に向かっていくということなので。

先ほどの南口の開発にしましても、きちんとしたステップを踏んで行けるタスクフォースをつくっていけば、もっと進み方が市民の期待を裏切らないのかもしれない。参加者が多ければ、タスクフォースのチームがしっかりしていれば、説明責任もありますし、地元の皆様へのフィードバックもできるだろうと思うので、ぜひタスクフォースというのをき

ちんと、どういう分野で何ができるかというのを考えていただけるとうれしいなと思いました。以上です。

#### 【A委員】

まずは、報告書を作成するときに、事実でない部分なのか、あとは、既に市は取りかかっていることだとか、読まれる策定委員さんが、多分初めのほうに見る文書だと思うので、精通する前に読むと思われるので、誤解のないように解説みたいなものがあるといいかなと思いました。

先ほどから、ご意見を聞いていて、まず、お2人から「市民教育」という言葉が出たんですけれども、これは社会教育的な意味で使われたのかなと思ひまして、杉並区では、社会教育でまちづくりの講座があつて、その後、そこから受講された方たちが独立した団体となつて市民団体をつくっています。それで各地でまちづくりの市民活動をしていくとか、そうやって社会教育から市民団体に移行していくというシステムをつくってやられています。そういう点で「市民教育」という言葉が使われているのであれば、すごく考慮された良い言葉だなと思ひました。

それから、私の市民活動という考え方の中で、初め、「武蔵野市民が資産である」「市民の力をより発揮できる」、この言葉はすごくいいなと思ひて、それが市民活動の盛り上がりにつながつたらいいかなと。市民の力を発揮できるという、自分のチャンスがどこかにあるのではないかというのを市が見つけてくれるというか、それは社会教育であるかもしれないし、その部分はすごくいいかなと思ひました。

あと、教育にお金をかけてほしい。まさにそのとおりで、これから私たちは、10年後、20年後、武蔵野市で生活していくに当たつて、そのとき社会をつくってくれるのは今の子どもたちなので、彼らにはいい教育を受けてもらつて、いい環境で育ってもらつて、いい社会をつくつてほしいです。以上です。

#### 【E委員】

この時間は1人3分の話を受けての議論というか、意見交換ということだつたと思うので、1つの話題提供としてお話ししたいんですけれども、例えば、災害に関して、「私以外の方が何人か発言されたと思うんですけれども、災害を1つ取り上げてほしいと言つたときに、「災害に〇〇なまち」と出たときに、何が入りますか。おそらく「災害に強いまち」というのがワードとして多くの方の頭にひらめいたのではないかなと。もちろん冊子の中にも「災害に強いまち」というのが出てきていると思ひます。これ、違う〇〇を皆様

で意見を出したらおもしろいかなと思うんです。そういうところから何か災害に対する1つの捉え方だとか、市のスタンスを、ステレオタイプな「強い」だけではなくて、違う視点でワードを編み出すのもこういう会議の1つの大事な機能かなと。お任せしたいんですけれども。

#### 【F委員】

「災害に柔軟なまち」というのはいかがでしょうか。災害というものを1つ考えたときに、いろいろなものがありますね。地震、雷、火事、おやじじゃないですけども、さまざまなものがあると思うんです。そういったことに対して災害対策というものを1つつくってしまうのではなくて、そこから柔軟に対応できるようなまちをつくっていかねければ、今後だめなのではないかと思います。コロナも災害に入るでしょうし、もちろん地震も入るでしょうし、水害も災害に入るでしょうし、そういったところに柔軟に対応できるようなまちづくりを目指していくのはどうかなと思いました。

#### 【K委員】

当たり前かもしれないですけども、「災害に備えたまち」というか、「準備ができたまち」という感じです。それは実例がありまして、例えば、緑のまち推進課というか、道路管理課さんというか、武蔵境の駅前にコンコースに屋根がついているところがあって、その上に草みたいな緑化があって、あれは多分武蔵野市でやられていて、下は一応歩道になっているんです。あそこがすごい風のときに、下道が屋根のついたところであって、その前日、大雨と大風が吹いたものですから、いっぱい下に枯れ葉があって、点字ブロックも乗っていたので危ないなと思って、これは誰が掃除するのかなと思って、いろいろ辿っていったら道路管理課さんだったんです。この間の会議でもらった「LINEで報告」というやつで、LINEで報告させていただいたら、道がきれいになった。

それとあわせて、玉川上水の歩道。玉川上水は多分都の水道局の管理だと思うんですけども、先日、武蔵野市の道路管理課の職員の方が草取り。普段の造園屋さんがやっているのとは違う、市の職員だと思うんですけども、汗だくだくにしながらビニールの袋に詰めながらやっていたんですね。これを初めて見て、初めてなのかなと思って、そういうふうには市民からの声に応じて道路管理課の方が、歩道が歩きづらいので刈ったのかなと思ったんですね。

そう考えると、そういったものも災害の1つで、大きな木の枝がなくなれば、倒れたりという災害に備えられているということを見ると、植木の手入れもある意味災害に備え

たということを考えられるので、そういった備えも必要。武蔵野市さんはたしか除草剤とか雑草の薬を使わないことをモットーにしているという話を聞いたので、人海戦術でやっているんだと思うんです。そういう点で災害に備えるということが道路管理課にも予算も必要だと思っていたりします。

そういった意味では、農地のことだって、公園だって、災害に備えていろいろな施策を打っていくということを考えると、例えば、公会堂の建て替えの話だって、老朽化の建物を今のうちから災害に備えて耐震もしくは建て替えするということで、そうやって広がっていくと、結構各分野に広がっていくのかなと。これは1つなんですけれども、そういった意味で災害に備えたということはキーワードの1つとしていいのかなと思います。

#### 【O委員】

今、お2人から「柔軟」と「備える」なんですけれども、災害にまず備えなければいけない。もし災害が起こった場合に助け合ってほしい。そして柔軟に対応していくという段階的な時系列がわかるような見え方がいいのかなと思いました。

#### 【G委員】

今、お2人が先に言っていただいたんですけれども、災害にではなくて、災害は起きるものなので、何十年に一遍というのが、最近、100年に一遍とか、よくわからないとよく聞くんですけれども、災害が起きても対応できるまち。だから、その準備があって、準備するのが結構大変なんですけれども、避難所がここにあるとか、こういうところがあったら、食料はここにストックしているとか、水が足りなければ、井戸水、幾つか民間の方に借りて、準備したりしていると思うんです。そういう十分対応できるまちというような、言葉遊びだけですけれども、意味としては皆様言われている内容で、後になってしまったんですけれども、そう思っています。

#### 【E委員】

私も今、災害を受け入れるんだというような感覚の方が多く出たのがおもしろかったなと思いました。私も考えてみて、備えるとか、助け合うとか、災害に耐えるとか、そんなようなことを今考えた上で提案したんですけれども、災害に強いというと、打ち勝つんだとか、退治して乗り越えるようなニュアンスと、一方で、災害は来るものだから、受け入れて、被害を最小限にするとか、来るもの、受け入れるものだというスタンスを明確に。災害に強いというと、その辺のスタンスがどっちなのかが見えにくいというのが、前々から思っていたことなので、「柔軟な」というのはすごくいいかと思ったんですけれども、

受け入れる姿勢があります。来るものだという前提で、それを柔軟に受け入れる。その上で助け合うというのが武蔵野市っぽいかなという気がします。そういうところを考えていくところが市政の立ち位置みたいな、災害に対する見方とか市政の立ち位置みたいなことにつながっていくのかなと思いました。ありがとうございました。

#### 【B委員】

きょうの意見交換のテーマの分野横断的なのというところで、委員の方のお話を聞いて、おそらく1つキーワードというか、改善するものになるのは、広報活動なのかなと感じました。私自身、とある会社で広報をやっていたので、企業の広報は、結果が出ないと100%会社のほうが悪いんですけども、行政の広報活動は、市役所なのか、それとも市民なのかということになると思うんですけども、昨今、非常に混沌としているので、日々の生活に目いっぱいだと、なかなか関心を持ってないというのもあると思うんですけども、これだけITが進んでいるので、私の所属していたグループで出ていたんですけども、非常に魅力的なアプリを使って、毎日何となく見ちゃうなという、某ドリンクメーカーとかドラッグストアで今アプリをやって、歩くとポイントがつくとか、それこそ武蔵野市の公共機関、公共施設に立ち寄るとポイントがつくとか、これはあくまでもあれですけども、そういうアプリだとか、何らかのかすがいをつくって、より市民の方の参加意識を高める。

先ほど、A委員は、非常に敬服するあまりの活動をされているんですけども、ボランティア活動をしたんだけど、なかなか踏み出せないという人もいるでしょうし、そういういろいろな問題を解決する入り口にあるのが、双方向の広報なのかなというのを、ほかの委員の方のお話を聞いて感じました。これが職員の方の業務もかなり軽減することにもなり得ますし、そういった新しい技術を使っていくということも考えられるかなと感じました。

#### 【G委員】

先ほどちょっと質問があったかと思うので、この市民会議で言うのは違うのかもしれないですけども、この市民会議で話した内容というのは、多分、文書になったりして、取りまとめていただいて、審議会の方に提出されると思うんですね。実際に、最初、市長さんが来ていたりとか、傍聴席に議員の方が見えていたりして思ったんですけども、そういうのが直接こういう場に入ってくるということは、混乱するからないものなんですか。というのは、多分、言われていた内容を直接話して、こういうことをやっていますか

というのを聞きたいと思うし、変な話ですけれども、できるだけ言ったことを、18人しか今はいませんけれども、500人の中の18人が出てきたら、言ったことをできるだけ実現してくれる方に1票を入れたいと思うんですね。そういうのは難しいものでしょうか。

#### 【事務局】

ご質問ありがとうございます。

まず、今回の市民会議につきましては、冒頭のほうで目的をお伝えしましたとおり、市民委員同士の皆様での議論。その中で出たご意見を、市長、これから六長調の策定委員会、議員も含めて、あと、市民の皆様にも報告書として公表させていただく、伝えさせていただくということです。

職員のほうにも、策定委員会が始まるに当たりまして、今は市民の皆様からの論点、課題等をいただいておりますが、職員側としての論点というのも考えていく。それにはこういった皆様からのご意見も踏まえて考えていくというところで報告書のほうは職員のほうとも共有させていただきます。

傍聴のほうも、議員の皆様を含めて、職員も含めて、参加できるようにはなっております。一方、市長と直接お話をしたいということにつきましては、今でも市長とのふれあいトークですとか、市長への手紙ですとか、いろいろな制度がありますので、そういったところもご利用いただきたいと思いますし、策定委員会に関して言いますと、これからまた意見交換会ですとか、パブリックコメントですとか、さまざま計画の中での議論に参加いただく機会があります。今回の市民会議につきましては、冒頭申し上げましたとおり、市民委員同士のご意見を報告書として、市長を含め、策定委員、議員のほうにも、資料として報告させていただくという予定でございます。

#### 【G委員】

ありがとうございます。

#### 【K委員】

G委員と同じような趣旨の質問だったんですけれども、もともと設立趣意書にも、参考意見としてここで議論して、それを市長に報告する、で終わっているんですけれども、市民同士の意見交換の場でも、自分の意見を出すんですけども、フィードバックが見えない。あるいは、先ほどどなたからもありましたけれども、いろいろな計画の進捗が見えないみたいな話があるんですけれども、本委員会は、市長に報告して終わって、いろいろな意見が出たけれども、それがどういう取捨選択をされて、その理由は何で、最後の策定計画書



にいくみたいなプロセスについては、どのように今後我々ここに参加した者たちがフォローできるんでしょうかというご質問です。

#### 【事務局】

ご質問ありがとうございます。

最初の第1回の市民会議の際にも資料のほうでも入れさせていただきました。今回の皆様のご意見は、まず、現状の課題等を出していただいたもの。それにつきましては、これから8月に策定委員会が設置されて、来年の2月公表を目標にしまして、討議要綱という、これから調整計画を策定するに当たって論点を抽出するところの論点出しの参考にさせていただくと。それは今回の市民会議だけではなく、5月に行っておりますオンラインによるワークショップですとか、8月にも対面のワークショップを行います。また、来週、中高生世代の未来ワークショップを行ったり、最初に申し上げましたとおり、そういったいろいろな報告書を受けて、市職員もそれを共有して、それぞれ職員としての論点を抽出していくと。そういったところに反映させていく。全てを、1から100まで全部が反映されるかどうかというところは、策定委員会の中での議論ということになってくるかと思えます。

さらに、今回、現状、課題の中から、今後こういう取組みをしたほうがいいのではないかと、論点出しをした討議要綱での意見交換等も踏まえて、次の計画案ということでこれからの5年間の計画をどうしていくかというところに反映されていくという流れになっています。

本日、最後に事務連絡でもお伝えしようと思ったんですけども、調整計画の策定はまだ始まったばかりです。今回のご意見等も踏まえて、これから策定委員会の議論が行われていきます。皆様には、策定委員会での傍聴等にも来ていただければと思いますし、さらにまた、先ほど言いましたように、討議要綱での意見交換会ですとか、パブリックコメント、そういった進捗のほうは、皆様のメールに随時我々も配信していきたいと考えておりますので、策定の経過を注視していただくとともに、そういった機会にご参加いただければと思っております。以上です。

#### 【A委員】

今まで策定委員会を傍聴していると、必ずアンケートがあって、そのとき議論した内容だとか、言いたいことが結構書けるんです。我々の意見がどう処理されていくかは、みんな傍聴しに行って、どういう話をしているか、自分たちで聞いてみましょう。そこで意

見を書きましよう。それで意見をいっぱい書いて。みんなで行きましよう。

#### 【事務局】

ぜひお越しいただければと思います。第1回の策定委員会は8月24日を予定しております。

ほかにご意見等ございますでしょうか。F委員、お願いします。

#### 【F委員】

ただいまの話の続きというか、ふくらませた話なんですけれども、そうやって傍聴して、ものができていく。自分の意見が反映されていくというのは、一種の成功体験だと思うんですね。その成功体験というのは非常に重要でして、それが自分は「やったー」という達成感につながるわけです。そうすると、ほかの人に伝えたいものですね。そう思いませんか？ 私の言ったこと、こんなことになっているんですよ。伝えたいと思うんです。そこは結構広報につながるなと思っていて。我々の意見を明確に整理いただいて、段階を追ってして下さると思うんですけれども、そうやっていくことが、実は前々から議論されている広報活動にもつながっていくのかなと思います。それはこの市民会議以外でもいろいろ会議があって、お話しされるというご説明がありましたけれども、その会議に参加している方々の成功体験にもつながるのかもしれない。こんなことをやって、こういうふうになったぞということが、それがどんどん広がっていけば、市民の一体感がもうちょっと生まれるのかなと思いますので、ぜひこのまま続けていっていただきたいなと思います。以上です。

#### 【K委員】

忘れてしまうかもしれないですけれども、駅周辺のまちづくりということがあって、例えば、吉祥寺駅周辺だと、都立井ノ頭公園のところは配置されたとして、武蔵野市だと井ノ頭公園がよく出てくると思うんですけれども、ご存じの方はいるかもしれませんけれども、小金井公園の一部に桜堤の3丁目が今も面積の半分は入っている。知っている人と知らない人といらっしゃると思うんですけれども、今の3丁目の半分が小金井公園。半分以上かもしれない。その小金井公園について、武蔵野市としての小金井公園の位置づけというか。井ノ頭公園はいろいろな意味でよく武蔵野市に出てきますけれども、小金井公園の3丁目の位置づけはどういうものになっているのか。例えば、防災拠点なのか。どういうものなのか。それは結構重要な。私も50年近く住んで、よくわかっていない。例えば、小金井公園も井ノ頭公園と同じように、観光地じゃないですけれども、人を寄せる場所と

いうふうに考えれば、武蔵野市ですから、武蔵野市を活性化するための1つのものになるのではないかと。それを使うことによって、交通アクセスも小金井公園に回るようにする。もっと武蔵野市を横に縦横無尽に活用できるのではないかと考えているんですけども、その辺が住んでいて疑問だったものですから、長期計画にも場合によっては組み入れられるのかなと思って質問させていただきました。

#### 【事務局】

ありがとうございます。

小金井公園は都立公園になりますので、市のほうでできることとできないことはあるかと思いますが、いただいたご意見を踏まえて、どう連携していくかということを考えることはできるかなと思います。

#### 【総合政策部長】

ちょっとだけ補足というか。よく言われるんですけども、井ノ頭公園と言ったときに、井ノ頭公園の公園の部分はほとんどが三鷹市さんになるんですね。なので、うちの市は、市として表記するときは、井ノ頭公園についてはうちの市ではないので、そこは気をつける。どうしても吉祥寺と近いので、イメージ的には。ほぼ市域に入っているのが自然文化園。動物園とかがあるところなので、そのあたりは、市のPRより、テレビのイメージのほうが大きいので難しいところではある。都立公園であることはそのとおりですが、確かに小金井公園が視点として井ノ頭公園のインパクトと違うのは確かなので、そこはご意見としていただいたというのは、事務局がお話ししたとおりだと思います。

#### 【K委員】

要は、理由はわからないので、勝手な質問なんですけれども、もともとは桜堤3丁目というのが今の倍あって、そのうちの半分が小金井公園になってしまって、人がいなくなったので、ある意味過疎地になってしまったという。それがなければ、人が今の倍はいたはずなので、そうすると、もっと活性化したわけです。それをわざわざ都立公園に転入させてしまったということは、理由によっては、えーっと言うし、ああそうなのかと言うし、そういった理由なら、もっと今残っている人たちを優遇というのはおかしいんですけども、もっと有効にしてあげてもいいのではないかと、そういうところにもつながるかなと思っていましたので、そういった意味で話しました。

#### 【C委員】

先ほどの公会堂の建て替えなんですけれども、公会堂の建て替えに関して、もし美術館

構想と歴史館とを含めてやっていただけるならば、ある画家の遺作を、数百万か数千万かわかりませんが、貯蔵している全てを寄贈するというふうに。どうしても美術館構想をつくってほしい。その方1人だけではなくて、武蔵野市内のあれだけの芸術家の方たちが市のほうに寄贈されているものを見ると、他の自治体からうらやましがられるほどのものがいっぱいあるわけですね。それがそのままお蔵入りしているわけですから。ほぼお蔵入りと一緒になんです。

それと、ふるさと歴史館で所蔵されている資料が倉庫いっぱい、狭くて、これ以上収納できないという状況にあるんですということをふるさと歴史館の学芸員の先生から聞かされております。この間、新聞に、公文書はあっても私文書が保存されていないみたいなことが、きのうかおとといの読売新聞かな、載っていた。でも、私文書を保管する以前に、私文書というのは、地域の昔からの農家の方々にはご自宅で保管されている方が多いんですけれども、そういったものを含めて、オープンにできるのだったら、ふるさと歴史館を含めて美術館構想と一緒に、どうしても公会堂をそのような方法でつくってほしいということが願望です。

#### 【O委員】

話が前に戻ってしまって恐縮ですけれども、先ほどの市民会議の意見の反映についてというところですが、長期計画の中で社会情勢の変化ですとか、長計までの経緯というところがあると思うんですが、市民会議については、いつからいつまで、この会議をやったという記載しかないんですね。今の長計は。そうではなくて、市民会議で得られた意見について、こういうことが出て、それを社会情勢の並びと同様に、長計の調整計画にこういうことを活かすというあたりがコメントされると、よりこの場で出たことが、どういうことが反映になっているんだろうかということがわかりやすいのではないかなと思うんです。全てを反映できないということは理解しておりますけれども、経緯とか、どういうことをここにこう盛り込むというあたりの決め方が前段で示されるべきではないかなと感じました。

#### 【I委員】

今、O委員からご指摘があった、昨今の変化というものが調整計画の中でどういうふうに反映されていくか。実はオンラインのときには「変わったことはありませんか」という質問が出て、それにみんな答えるんですね。今回、その視点があまり明確になっていなかったのもので、各委員が、いわゆるコロナ禍、例えば、気候変動の変化とか、危機感を全く持たずにこの議論に入ってしまったような気がしているんです。ですから、潜在的な意識の

中に、変化に対応して調整計画をつくり上げていかなければいけないというきちんとした学問があるべきなのか、いや、それはもっとぼんやりしたものでいいのかというのは、私にはよくわかりません。市民委員のこの4回の会議がそういった変化をきちんと捉えて、それはさっきの危機感、危機管理の話と関係してくるんですが、いかに敏感に私たちが危機を感じ取るか。それによって対策が立てられるのか、立てられないのか。こういう大きな敏感に感じ取られた、私たち自身が、各委員は、今回そういった危機管理的な変化をきちんと感じ取って議論したかどうかというのは、自信が私にはありません。以上です。

#### 【A委員】

そろそろ終わりなので、策定委員に要望というか、策定委員に向けての言葉もあつたらいいかなと思って、討議要綱策定までには一度子どもの意見を聞いてほしいなと思います。以上です。

#### 【M委員】

先ほど、事務局からもお話があつたと思うんですが、この先、六長調の策定が始まって、傍聴したり、傍聴の意見を書いたり、あとは討議要綱と計画案とパブリックコメントをやったり、意見交換会とかで意見を言う機会があります。今回、皆様この市民会議に参加して、思ったとおりだったか、それとも、思ったものと違う会議だったか、いろいろ皆様感想はあると思うんですが、せっかくなので、言いつ放しにするのではなくて、しつこく追いかけていくというのがすごく必要だと思います。しつこくいろいろなことを追いかけていると、「プロ市民」とか言われたりして、全然プロじゃないよ、そんなことぐらいでプロと言うなと思うんですけども、私は市民活動をやっている人のよさは、しつこさだと思うんです。なので、皆様もここで市民活動の種はまかれたと思うので、ぜひしつこく、しつこく追いかけて。六長調のみならず、それぞれの興味のある個別計画だったり。

市議会も傍聴する人がすごく少ないんですね。前回の住民投票のときは異例で、普段は、鉛筆1本落とした音が響くぐらい、誰もいないんです。今は本会議と委員会もネット傍聴できるようになって、動画も中2日、3日ぐらいで上がったりするので、武蔵野市、資料もわりあいすぐに上がるし、追いかけてよと思えば、幾らでもとれるんです。

なので、みんなでマニアックにどんどん掘って掘って、その中で、自分が出した意見が、すぐにではないにしても、いつか取り上げられることも実はあつたりします。いろいろなところで意見交換会に参加して、しつこく意見を言っているうちに、気づけば、偶然かもしれないんですけども、もしかして、この意見、私が言った意見、みたいなものなくは

ないんです。しつこく追いかけている中で。なので、それぞれ、日々の生活がある中で、できる限りそういうふうにしていけたらいいのではないかと思いますし、素晴らしい市政に、本当の市民参加の市政になっていくのではないかと思います。以上です。

#### 【事務局】

ありがとうございました。

今のM委員の意見もそうですし、先ほどI委員からもありましたが、オンラインワークショップ以降も、普段なかなか市政にかかわりのなかった方が、案内がきて、何だろうと思って参加いただいた方がかなり多かったかなと。今回の市民会議の中にも第1回の意見のときからいろいろな方がいらっしゃると。今までこういう機会がなかったという方もいらっしゃったのかなと。市民会議の応募は、もともと10名程度ということで案内をしていたところ、18名の方に応募いただいたということは、市としてもすごくうれしかったことで、そういった意味で、皆様参加ということにさせていただいたので、結果的には会議体として大きくなり過ぎたのかもしれないですけども、そういったところで今回皆様、本日の意見の中で、これからどうなるんだろうということに興味を持っていただいたというのは行政側としてはありがたいことで、ぜひこれからの策定を見守っていただきたいと。ご意見等もぜひいただきたいと思っております。

そろそろお時間ということになります。皆様、よろしいでしょうか。どうぞお願いします。

#### 【N委員】

各地域から集まってこられた委員の方たちで、その方たちが地域に帰って、その地域でこの経験というか、何か広められるといいなと思うんですね。そのあたりに議会の傍聴とか、ちょっと敷居が高いかもしれないんですけども、地域にはコミセンというものがある。そこをもっと市民ディスカッションの場に活用していけたらいいのではないかとすごく思います。

昨年、コミュニティ構想50周年でしたっけ、私もコミュニティ構想の式典なイベントに行きたいなと思っていたんですけども、すごく立派なことを言っていて、これをそのままやっていたら、本当にその地域、地域の問題解決、ひとつひとつの本当に細かい、そこに住んでいる人が困っていることをみんなで話し合える場にこのコミセンになるんだなというようなことを思えたんですね。でも、実際、コミセン、今どうなっているのと思ったときに、コミセンがあるのを知らないよという方がいたり、コミセンは使いづらいよ

ねと言われてしまったり、各地域にせっかくあるのにもったいないと思う施設なので、その有効活用をもっとできたらいいなとすごく思います。

**【G委員】**

私、ワークショップで入って今回は知ったんですけども、来週、中高生のワークショップをやられるかと思うんですけども、そこでもこういうことをやっていて、似たような取組みができれば、次の市民になる人たちのほうが多分鋭い視点を持っていると思うので、何か意見をくみ上げる場は持てないか。もしくは、こういうことをやっているから意見を出してねということが続けられないかというのを考えてみていただけないかなと。

**【事務局】**

ありがとうございます。

未来を担う子どもたちも含め、先ほどA委員からもありましたけれども、ぜひ子どもの意見を聞く機会を設けてほしいといったご意見もありました。そういったところも踏まえて、これからの策定の中で、十分検討していきたいなと思っております。

(3) その他（事務連絡）

事務局より今後の計画策定の進捗状況について随時情報提供する旨及び参加者アンケートへの回答について依頼した。